

入試に向けてのアドバイス

— 高校受験編 —

【国語】

総合的学力を試す出題です。大問は3題あり、現代文分野2題、古典分野1題です。

- ① 説明的文章（評論文など）より読解問題。文脈に沿った論旨・筆者の主張を正しく理解できていることが求められます。説明的文章の問題を解く上で必要な力は、「読解する力」です。普段からたくさんの文章に触れることで身につく力です。新聞の社説やコラムなど、筆者の言いたいことは何かを考えながら読む習慣をつけることも大切です。
- ② 文学的文章（小説・随筆など）より読解問題。登場人物の心情の移り変わり、表現上の特色、味わいなどにかかわる設問が中心となります。文学的文章の問題を解く上で必要なことは、登場人物の心情や場面、情景などを読み取る「感性」「感受性」が大切です。これらのことを意識しながらさまざまな文章を読んでみましょう。「読むのは苦手」という人は、短い文章からはじめ、長い文章にも慣れていきましょう。
- ③ 古典分野は基礎問題。文語文学に備えて、古典常識や内容のおおまかな理解が求められます。また、それぞれに漢字・語句の意味など語彙に関する問題が含まれます。問題集などで多くの問題にふれて、古文に慣れておきましょう。

【社会】

地理・歴史・公民の複合問題です。すべての問題においてマークシートの解答を取り入れます。出題傾向は前年と変わりません。そのため、前年までの過去問を解いておいてください。教科書を丹念に読んでおいてください。その際、「なぜそうなったのか」「この結果どうなったのか」ということに注意してください。時事問題も出題します。世の中で大きく取り上げられている問題に、アンテナを張って下さい。

【数学】

出題範囲は、標本調査を除きます。解答形式はすべてマークシートですが、解答を選択する問題に加えて、解答を数字で答える問題も出題します。

計算から文章題まで全範囲から出題します。各分野で基礎を活用する力がついているかを試す問題です。“易しくはないが、難しくもない”レベルの問題が大多数を占めています。中学数学の基本事項がきちんと理解できていれば、正解を導き出すことができます。放物線と直線に関する問題は、ほぼ毎年出題されていますので要注意です。三平方の定理も要注意です。第1問の小問10題でどれだけ点数を取れるかがポイントになります。本校の過去問をしっかりと解き、標準的な問題集で基本事項の理解と応用力を養って下さい。

【理科】

1分野から物理・化学の大問2題と、2分野から生物・地学の大問2題の計4題です。

物理は、教科書の基本内容をベースにしていますが、複数の分野に渡って、法則、計算、図表などを理解して解く力を問います。

化学は、基本的な内容を各設問で確認していきます。知識を問うだけでなく、化学変化の量的な関係について理解でき、さらに計算できる力を問います。

生物は、教科書の基本内容をベースにしていますが、語句、用語、図表などを関係づけて理解しておいてください。応用力を問う問題もあります。

地学は、基本問題が中心で、教科書の内容が理解できているかどうかをはかります。また、図やグラフを読みとる力、最小限の計算力なども求めます。一部、応用的考察力も問います。

時間配分をよく考えて、特に基本問題でケアレスミスのないようにしてください。

【英語】

マークシート形式 中学卒業「標準レベル」の総合問題で、以下の分野について出題します。

- ①. 「音声」から必要な情報を収集し、何が問われているのかを正確に聴き取る能力
- ②. 中学3年間を通して学んできた「語彙」・「熟語」・「文法」の知識および応用力
- ③. ②の知識を使って、まとまった文章から「場面」「状況」をイメージし、必要な「情報」を読み取る能力

●英検3級受験用の問題集

入試問題は、形式もレベルも、実用英語技能検定3級の設問とよく似ています。もうすでに3級を取得している受験生のみなさんでも、「満点」で合格したと言い切れる人はいますか？ 問題集を2回目、3回目と繰り返し解答する価値はあると思います。

●受験するにあたって

50分の試験時間の内、最初のおよそ10分間はリスニングテストを行いますので、「残りの40分」で文法(文法)、リーディング(長文読解)問題を解き切る「スピード」が求められます。各設問の配置、問いの数に変更はありませんので、過去に出題された入試問題を実際に手にして、「問題形式」「時間配分」を想定して慣れておくとい良いでしょう。

※龍谷大平安ホームページから「過去問・解答」が入手できます。

●入学後の活動を見据えて

龍谷大平安高校では、英語の授業で「コミュニケーション活動」を多く取り入れています。今必要な知識の「定着」を⇒「運用」⇒「応用」へとつないでゆくためにも「音読」の効果は絶大です。教科書をはじめ、問題集、単語帳などに取り組む際にも「音源CD」等があるのであれば、ぜひ利用して「声」に出してみましょう。実際に話しているかのように、人前で発表しているかのように、また発音をテストされているかのように、スラスラと言えるようになるまで繰り返しトレーニングをしましょう。